

対象地域の特徴

渡良瀬川は北関東を流れる利根川水系最大の支流である。群馬県を流れる渡良瀬川は、群馬県と栃木県の県境にある皇海山が水源となり、いくつもの支川を合わせながら、みどり市で関東平野に流れ出し、桐生市の中心を流下する。

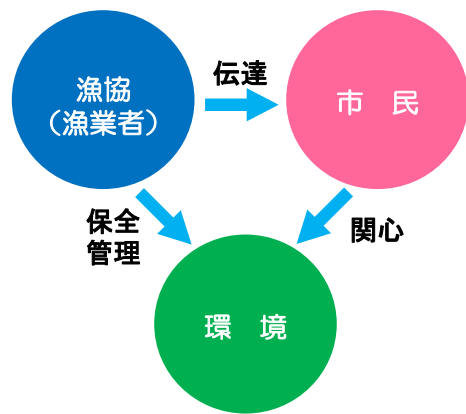


活動区域の現状と活動方針

われわれが活動する区域は、都心から近く、イワナ・ヤマメなどの溪流魚の釣り場として有名である。一方で、近年、河川整備の弊害や「川は危険なので近づくな」という教育や認識の広がりによって、地域住民や子どもたちの『川離れ』が進行している。

川離れの進行は、地域住民等の環境保全への意識の薄れ、更には河川荒廃の原因につながる恐れがある。こうした問題を解決するため、群馬県両毛漁協は、平成25年にWFFAを発足した。

WFFAでは、渡良瀬川で水生昆虫観察や魚の放流体験等の川遊びを通して、生物や河川環境に関心をもってもらう活動を進めている。また、これら活動をもって、水産業が担ってきた川の「環境保全」および「地域文化の継承」といった多面的な役割と機能を果たしている。



活動内容

WFFAでは、漁協の役割や遊漁規則の話を交えながら、体験交流型のカルチャースクール『Fureai ワークショップ』を開催している。このワークショップは、環境を保全することから、その環境で楽しく安全に遊ぶことまで、一連の流れで学習できるよう、主に以下の8つの活動を組み合わせて展開している。

- ・ヤマメの放流体験
- ・水生昆虫を模した疑似餌（毛針）の作成
- ・環境学習
- ・作成した毛針を使った釣り体験
- ・清掃活動
- ・魚礁や水生生物の隠れ場づくり
- ・水生昆虫採取と観察
- ・設置した魚礁等のモニタリング調査

活動実績① ワークショップ 釣り体験

釣り体験のワークショップでは、水生昆虫などの生物の話や、魚と水生昆虫との関係性の話、河川環境の話など、自然を学ばせることから始める。次に、水生昆虫を実際に採取、観察してもらう。その後、それらの水生昆虫に模したフライ（毛針）の作成体験を行う。そして、フライフィッシングの方法、魚のリリース方法等を学び、自作のフライを用いて、釣り体験をしてもらう。



活動実績② ワークショップ 魚礁や水生生物の隠れ場づくり

魚礁や水生生物の隠れ場づくりのワークショップは、森と川と海の繋がりや溪流の食物連鎖などをテーマに開催する。

水生生物の隠れ場づくりでは、落葉や落枝を集め、川に生物の隠れ場をつくる。その後、ヤマメの放流を行い、水中観察する。

魚礁づくりでは、カワウによる食害等を考慮し設計した『浮き魚礁』の作成・設置を行う。活動を通して、カワウの食害対策への理解も深めている。



活動の効果と課題

釣り体験では、座学から体験までを行うことにより、自然の中で遊ぶ大切さを学ぶ良い機会になっている。また、一般の参加者が環境保全の取り組みへのきっかけとなる重要な場となっている。

魚礁等の設置の取り組みでは、モニタリング調査の結果、カゲロウ、カワゲラ、トビゲラなどの水生昆虫に加え、ヤマメの稚魚を確認することができた。ダム湖での目視調査では、魚礁周辺でワカサギの群れを何度も確認することができた。

今後の課題としては、ダム湖における魚礁のモニタリング調査では、安全性を考慮し水中カメラで観察を行っているが、船で礁体に近づく際に、音などで魚礁にいる魚が逃げてしまっている。そこで、今後は、水中ドローンを用いた調査を検討している。また、活動の成果をより定量的で客観的に評価できるモニタリング手法を確立することも、大きな課題となっている。